

## 新生美術館整備推進専門家会議について

### 1. 設置目的等

#### ○設置目的

「美の滋賀」の拠点となる新生美術館の開館に向けて、平成 25 年 12 月に策定した新生美術館基本計画に基づき、具体的な機能の整備を進めるに当たり、専門的な見地からの意見、助言等を求める。

#### ○所掌事項

- ・「神と仏の美」、「近代・現代美術」、「アール・ブリュット」を柱として滋賀の多様な美に触れられる「美の滋賀」の拠点としての展示・保管等の機能に関する事
- ・多様な利用者とのコミュニケーション・協働機能に関する事
- ・来館者増に向けた広報・マーケティング等の機能に関する事
- ・観光や地域の産業との連携機能に関する事
- ・その他開館準備に関する事

#### ○委員 12 名(別紙名簿のとおり)

座長 岡田修二氏

### 2. 第 1 回会議の概要

- ・開催日時 平成 28 年 11 月 28 日(月) 13:30~15:35
- ・開催場所 近代美術館ワークショップルーム
- ・議題 「新生美術館における機能整備について」

### 3. 第 1 回会議における主な委員意見

#### ○「美の滋賀」について

- ・この美術館の一番大事なコンセプトは、「美の滋賀」の拠点・入り口だと思う。
- ・地域や暮らしの中に美があるという今までの美術館とは違う観点がある。
- ・地域の文化を調査して、芸術的な価値があるものとして展示していくことが大切である。
- ・「美の滋賀」の文脈をきちんと作るということは、他の美術館にはないところであり、大阪や東京ではできない。滋賀県の地域性を活かした美術館ということで、差別化が図れる。

#### 【論議のまとめ】

新生美術館基本計画のとおり、「美の滋賀」の拠点・入り口として、過去から現在までの多様な美の魅力を発信できるよう、整備を進めていく。

#### ○展示・保管等の機能について

- ・収蔵庫が新しく3つできるが、収蔵庫4、5、6は、近くにある展示室と有機的に結びつく形で役割分担をしていくことが重要である。
- ・コミッションワークは、昨今の美術館の開館時におけるシンボルとなっていることもあり、大変重要な要素になっている。
- ・発達障害者を対象とした鑑賞プログラムを全国に先駆けて作ってほしい。
- ・案内表示は、大変重要である。是非、既存館も含めて、館全体の案内表示を計画して、他の美術館のモデルとなるよう頑張ってもらいたい。

#### 【論議のまとめ】

相隣接する展示室と収蔵庫については、組み合わせて活用する方向で検討している。コミッションワークは、開館時におけるシンボルとなるよう、検討を進める。また、案内表示についても、来館者に分かりやすいものとなるよう努めていく。鑑賞プログラムについては、多様な利用者への対応について、研究していく。

#### ○多様な利用者とのコミュニケーションについて

- ・近代美術館では、20数年間キッズアートをされてきて、その実績を積んできたからこそ、「美の糸口 アートにどぼん」はあれだけのお客さんが来ているのだろうと思う。
- ・先日、大津市の障害者自立支援協議会の皆さんの話を聞いていただいたが、たびたびそのような機会を設けてほしい。
- ・様々な団体とどのように具体的に連携を進めていくのか、仕組みを考えるべきである。

#### 【論議のまとめ】

今後も、福祉関係者との意見交換の場を設けていきたいと考えている。また、様々な団体と連携していくことは重要なことと考えており、連携の仕組みづくりについても検討していく。

#### ○来館者増に向けた対策について

- ・広報・プロモーションは、専門的な人材が必要であると考えている。どんなに良い事をして、人に伝わる手段を構築できないためにつまずくことが多い。この仕事には、かなり長い助走が必要。2年は必要ではないかと考えている。
- ・広報は、学芸員とよく連携して、考え方を一つにまとめ上げた上で、一般の方に響きやすいように形を変える必要がある。
- ・来館者の目標人数30万人という大きな目標は、良いことだと思う。そこに向けては、相当、施策を練らなければいけない。例えば、リピーターを5倍にするなど、具体的にどのあたりまで幅を広げて、どのくらいまで波及効果が及ぶのか、検討が必要である。

- ・来館者目標を実現するに当たっては、外部との交流をどう構築していくかということも必要である。それを実現するチーム体制を整えるべきと思う。
- ・Wi-Fi環境が重要であり、きちんと整備するべきである。
- ・公園と一体となった美術館ということをアピールしていくべきと思う。
- ・多言語対応、グローバル対応の打ち出し方を具体的に考えるべきである。
- ・学芸員と事務職が一体となって、広報のあり方やスローガンなどを検討してはどうかと思う。

#### 【論議のまとめ】

来館者増のためには、広報戦略やリピーターを多く確保する方策が重要であり、今後、他館の取組も参考にしながら、調査・検討していく。また、Wi-Fi環境の整備や多言語化、グローバル化対応についても重要な観点であることから、指摘を踏まえて検討を進める。

#### 4. 今後の予定

- 次回：3月頃に開催予定
- 平成29年度以降：各年度3回程度開催予定

新生美術館整備推進専門家会議 委員

(別紙)

(敬称略/50音順)

氏 名	役職等
アサダ ワタル	日常編集家 (作家、ミュージシャン)
イナニワ サワコ 稲庭 彩和子	東京都美術館アート・コミュニケーション担当係長
エリカワ フミエ 襟川 文恵	横浜美術館広報・渉外チーム渉外担当リーダー
オカダ シュウジ 岡田 修二	成安造形大学学長/画家
クリハラ ユウジ 栗原 祐司	独立行政法人国立文化財機構本部事務局長/ 京都国立博物館副館長
タカナシ ジュンジ 高梨 純次	公益財団法人秀明文化財団参事 (MIHO MUSEUM 研究・展示担当)
タバタ カズエ 田端 一恵	社会福祉法人グロー法人本部企画事業部総括
テラウチ キミコ 寺内 貴美子	株式会社 JTB 西日本地域交流ビジネス推進室グループリーダー
ニイゼキ シンヤ 新関 伸也	滋賀大学教育学部教授/附属幼稚園園長
ホサカ ケンジロウ 保坂 健二郎	東京国立近代美術館主任研究員
ミヤガワ タカアキ 宮川 孝昭	株式会社永楽屋代表取締役社長
ヤマオ サイ 山尾 才	滋賀県美術協会理事長/画家

(参考)

## 公開承認施設の承認申請スケジュールについて

### 1. 平成28年12月26日～平成33年12月25日の承認申請について

○平成28年11月17日 公開承認施設の承認申請提出(近代美術館長より県教委文化財保護課長へ)

○平成28年11月22日 公開承認施設の承認申請進達(県教育長より文化庁長官へ)

○承認予定期間 平成28年12月26日～平成33年12月25日

### 2. 工事に伴う公開承認施設の建物の改築申請について

○工事着工までに、承認が得られるよう、建物の改築申請

### 3. 平成33年12月26日～平成38年12月25日の承認申請について

(1) 重要文化財の公開予定(他館等から重要文化財を借用して展示)

①近江の古美術(展示期間 平成29年3月7日～平成29年3月31日)

②仏教美術展③日本美術展(新生美術館開館後、開催予定)

(2) 文化庁への承認申請

○平成33年11月 公開承認施設の承認申請

○承認予定期間 平成33年12月26日～平成38年12月25日